

## automatica 2023 ファイナルレポート

スマートオートメーション・ロボティクス専門見本市  
2023年6月27日～30日

2023年6月30日

### automatica - 業界の原動力として絶大な存在感を示す

#### Summary

- 来場者は 40,000 人を超える
- 充実した併催プログラムが業界支援を一層拡大
- 出展者・来場者双方から高い評価



#### Facts & Data

会期	2023年6月27日(火)～30日(金) 9時～18時(最終日16時)
会場	メッセ・ミュンヘン
主催	メッセ・ミュンヘン (Messe München GmbH)
後援	ドイツ機械工業連盟 (VDMA) ロボット・オートメーション工業会
規模	(2022年度 66,000 m <sup>2</sup> )
出展企業数	34カ国から 650社 (2022年度 35カ国から 574社)
来場者数	88カ国から 40,000人 (2022年度 75カ国から 28,937人)
主な出展品	組立・操作技術、ロボット、マシンビジョン、ポジショニングシステム、駆動技術、センサー技術、制御システム技術、安全技術、サプライ技術、ソフトウェア、サービス、研究・技術開発等
併催プログラム	munich_i high-tech summit、AI.Society、Robothon®、i_space program、automatica Forum、Vision Expert Huddles、Odense Investor Summit ほか
同時開催メッセ	LASER World of PHOTONICS 2023
出展日本企業 (現法出展など含む)	(株)アイエイアイ、SMC(株)、オムロン(株)、川崎重工業(株)、(株)クリエイティブテクノロジー、(株)キーエンス、CKD(株)、芝浦機械(株)、住友重機械工業(株)、セイコーエプソン(株)、(株)デンソー、THK(株)、ナブテスコ(株)、日本電産シンポ(株)、日本トムソン(株)、平田機工(株)、ファナック(株)、(株)不二越、ボールウェーブ(株)、(株)ミットヨ、(株)安川電機、ヤマハロボティクスホールディングス(株) ほか
専用 URL	<a href="http://www.automatica-munich.com">www.automatica-munich.com</a> (英語、ドイツ語)

今後数年間で労働環境ほか社会全体が大きく変化していくと言われている。2023年7月27日から30日までミュンヘンで開催された automatica では、オートメーションとロボティクスが今後の変化に対応して貢献できるソリューションとアプローチが紹介された。

前回開催から僅か1年での開催にあって、出展者は34カ国から650社を数え、来場者は88カ国から40,000人を超えた。パンデミックから完全に復活したと言える。また、今回 LASER World of PHOTONICS 及び World of QUANTUM と並行開催し、出展者・来場者双方により多くの付加価値をもたらせた。

主催者メッセ・ミュンヘン CEO のラインハルト・ファイファーとシュテファン・ルンメルは、「今回、automatica は、これまで以上に革新的な強みを発揮した。出展企業は、今後の課題に対して先見性のある革新的なソリューションを紹介した。そして、LASER World of PHOTONICS 及び World of QUANTUM との併催が、出展者と来場者の両方へ大きな付加価値を供与したことによって、ミュンヘンが最先端のテクノロジー・ハブであることが実証された」と結論付けた。



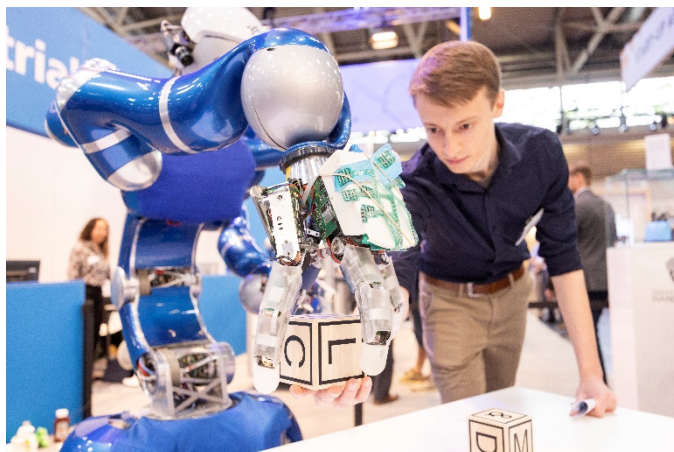
### 出展者から最高の評価

今回の automatica は、特に出展者から高い評価を得た。民間の調査会社 Gelszus による調査では、出展者の「94%」がこの見本市への参加を「とても良い」又は「良い」と評価した。特に、「来場者質の高さ」では「91%」、「新規顧客の増加」では「85%」が高い評価点を付けている。

HAHN Automation 社 CEO の Frank Konrad 氏は、「当社のようなオートメーション関連の企業にとって、automatica はビジネスに欠かせない見本市だ。昨年は、パンデミックの影響が残る中での開催のため緩やかな回復だったが、今回は、来場者が再び増加し、非常に多くのビジネスを確立させ、ネットワークを維持することで、素晴らしい結果を得ることができた」と述べている。

ZEISS Industrial Quality Solutions 社の Kai Udo Modrich 氏も今回の開催を高く評価し、「今年の automatica は、将来のスマート・ファクトリーに関連するトピックに焦点をあて、ロボティクスとオートメーションに関する世界屈指の見本市にふさわしく、大変満足 of いくものであった」と語る。

ABB Robotics 社 CEO の Marc Segura 氏は、「ロボティクスと AI は、今後 10 年先を見据えた変革を成功させるためのキーテクノロジーだ。そのために、automatica は、重要な役割を担う見本市として、さらにトレンドのバロメーターとして、企業が生産設備を今後のニーズに適應させること、すなわち、柔軟性を持ち、ネットワーク化させ、持続可能なものにするの重要性を、今後より一層高めていこう」と、満足の意を表わしている。



既存の主要企業のほかに、Google の子会社 Alphabet 社がロボット用ソフトウェア開発企業として立ち上げた Intrinsic 社が、今回初めて automatica に出展した。Alphabet 社の Henrike Neulen 氏は、「当社の目標は、ロボティクスを、提供側・利用側双方にとって、より簡単で、より身近なものにすることである。そのために automatica は、当社と当社の製品の両方を、世界中で紹介できる最適な場なのだ」と、automatica への出展を決めた理由について述べている。



## 最高の来場者満足度

ドイツに次いで来場者が多かった国は、オーストリア、イタリア、スイス、チェコ共和国、韓国、中国、ポーランド、オランダ、スロベニア、米国の順で、ドイツ国外からの来場者割合は全体の33%であった。会場でのアンケート調査においても来場者からの評価は高く、回答者の「98%」が今回の参加を「非常に良い」又は「良い」と評価している。さらに、来場者の「97%」が業界をリードする見本市である点を高く評価しており、今後 automatica の重要性がますます高まると期待されている。



## 社会の趨勢に合わせたトピックスに焦点—automatica の革新的な強みを強調

ロボットはかつて雇用を奪うものとみなされることが多かったが、現在はあらゆる分野において、スキル不足や人員不足を補うための希望の光となっている。ファナック(株)のブースで紹介されたベーカリー用のロボットはその好例だ。パンなどの大量生産やスーパーマーケットなどでの単純作業を自動化することができる。同社の Nils Terstegen 氏は、「当社にとって automatica は、ヨーロッパ市場と世界市場との両方において重要なプラットフォームであり、新製品を発表する場として毎回活用している」と述べる。

また、自動化は、生産における CO2 の排出量を削減するための重要な手段でもある。工場における組立ての自動化やハンドリングロボット技術は、リサイクルや循環型経済に対して大きく寄与する。KUKA 社 Wilfried Eberhardt 氏は、「持続可能なオペレーションは、現在最も差し迫って解決の必要な課題のひとつだ。ソフトウェアベースのシミュレーションは、試運転前に複雑な自動化ソリューションを効率的に計画し、最適化することに大変役立つ。今回の automatica は、新たに顧客対象となる皆さんに当社の新しい提案を紹介する絶好の機会となった」と述べている。

人工知能(AI)は、今回の見本市会期 4 日間を通してもう一つの主要トピックである。AI 領域への新規参入企業であり、AI のパイオニアでもある NEURA 社は、今回 automatica に初めて出展した。同社の Arne Nordmann 氏は、「世界中のロボティクス関連製品とテクノロジーが全て揃っている automatica は、ロボティクスのチャンピオンズリーグと言えよう。当社もここに参加し、我々のテクノロジーを紹介し、多くのパートナーと連携し合い、業界が進むべき方向を学びたい」と、熱い思いを語る。

## 充実したサポートプログラム

automatica は 6 ホールを使って開催され、展示エリアのほかに、今年もフォーラムや特別イベントなど、展示を補完するプログラムが多く設けられた。今回のハイライトのひとつに「Service Robot City」パビリオンと「Mobile Robots in Production」の展示がある。

「Mobile Robots in Production」の展示主催メンバーである Klaus Kluger 氏は、「モバイル・ロボットは、今後数年間で生産と物流において大きな変化をもたらす。今年の automatica では、VDA5050 基準と標準化されたコントロールステーションのおかげで、様々なメーカーの AMR(自律走行搬送ロボット)による相互運用可能な将来の生産物流の世界がどのようなものになるかを紹介する印象的なデモを執り行うことができた」と、満足そうに振り返った。

また、United Robotics Group 社 CEO の Thomas Haenh 氏は、Service Robot City の特別パビリオンから伺える将来性について、「今年、サービスロボット企業や新興企業がこれまで以上に多く出展していて大変刺激的であった。新興企業と既存の主要企業が協力することによって、ロボティクス事業が今後飛躍的に進展する



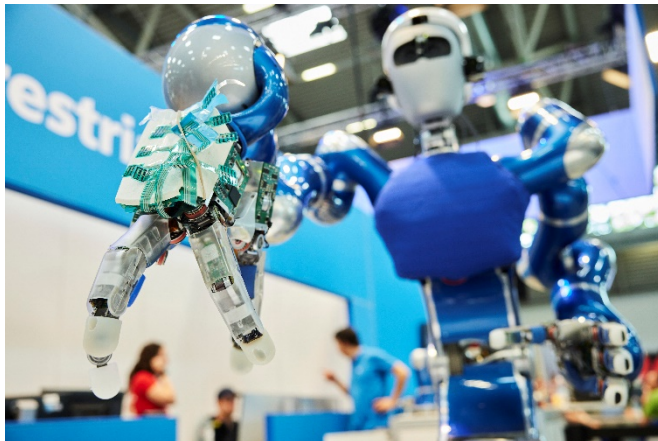
ることを期待している」と語る。

## **munich\_i ハイテクサミット — AI のシンクタンクとして**

munich\_i ハイテクサミットは、最先端のロボティクス及び AI に関する特別エリアであり、今回 3 回目の開催となる。ミュンヘン工科大学の Munich Institute of Robotics and Machine Intelligence (MIRMI) は、今回も AI とロボティクスの分野で講演会を開き、そこでは、AI とロボティクスの開発を「倫理と社会的責任」の文脈の中に置いて議論が進められた。

munich\_i のディレクターでもある Sami Haddadin 教授は、「今回も、産業界、科学界、新興企業の多くの先駆者たちが参加し、我々に未来を垣間見せてくれた。

政府関係者の参加もあり、AI とロボティクスの技術を社会にどのように生かしていけばよいかといった点について話し合うことができた」と述べている。また、同じくディレクターの Alena Buyx 氏は、「今回の munich\_i は、未来は今や私たちの手中にあることを示してくれた。そして、可能な限り最善の手段で未来を形作る方法について、科学・政治・ビジネスの 3 者間で議論するために不可欠なプラットフォームとしての役割を果たしている」と付け加えた。



次回の automatica は 2025 年 6 月 24 日から 27 日までまで、LASER World of PHOTONICS 及び World of QUANTUM と並行して開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ [www.automatica-munich.com](http://www.automatica-munich.com) で入手できる。

**資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:**

**メッセ・ミュンヘン 日本代表部**

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: [info@messe-muenchen.jp](mailto:info@messe-muenchen.jp)

URL: [www.messe-muenchen.jp](http://www.messe-muenchen.jp) (日本語) [www.messe-muenchen.de](http://www.messe-muenchen.de) (英語 / ドイツ語)